

### 3. 議事

## (2) 金剛地区再生指針推進の取り組みについて (平成30年度上半期)

1

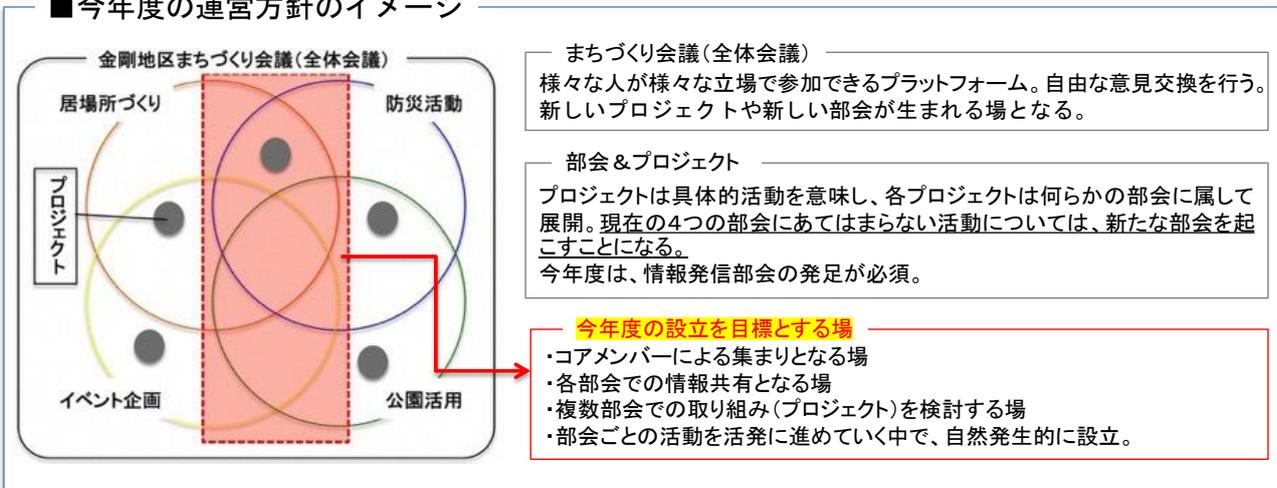
### 金剛地区まちづくり会議全体会の開催

これまでに2回の会議を開催

第1回(5/13) 今年度の金剛地区まちづくり会議の運営、スケジュールについて話し合う。

金剛地区まちづくり会議の今年度の運営方針として、以下のイメージを目標とすることを決定。

#### ■今年度の運営方針のイメージ



2

金剛地区まちづくり会議は、、、

- ・町会(自治会)等とのつながりを大切にする場に。
- ・様々な人が様々な立場で参加できる場に。
- ・参加者は自由に思いや意見を語る場に。
- ・参加者同士のつながりが生まれ、あらたなプロジェクトが生まれる場に。



金剛地区まちづくり会議は、  
様々な人が参加し、参加者間のつながりの場となっている。

第2回(7/21) 各部会による取り組み報告と近畿大学久教授より話題提供。

都市計画やまちづくりを研究されており、実際に地域に入り、まちづくりや市民活動などの支援をされている近畿大学総合社会学部の久隆浩(ひさたかひろ)教授に「みんなで楽しくまちづくり」をテーマとして話題提供していただきました。

- ・公共サービスを市民自身やNPOが主体となり提供する社会、現象、または考え方である「**新しい公共**」について。
- ・活動を行事型から課題解決型に、運営方法を階層組織型からネットワーク型にする「**地域活動の見直し**」の必要性について。  
 →地域活動のあるべき姿を考え直す必要がある。
- ・**階層組織型とネットワーク型**での地域活動の違いについて。
- ・**ネットワーク型の活動展開**について。

	階層組織型	ネットワーク型
構成員の関係性	上下関係	水平関係
意思決定	上層部で決定	みんなで考える(意思決定がないときも)
活動形態	指示・命令で一丸となって動く	自発的に、できること/やりたいことを行う
	やらねばならないことを使命感で	やりたいことを楽しく
秩序形成	管理	自律
核となる人	リーダー	ファシリテーター
即効性・持続性	即効性：高 持続性：低	即効性：低 持続性：高

### 四つの部会を設置して活動中

居場所づくり

公園活用

イベント企画

防災活動

部会活動には、  
地区内外の様々な関係者・団体等、多数の方が参加しています。

### 各部会の取り組みについて(居場所づくり部会)

居場所づくり部会をきっかけに部会の枠組みを超えた活動が広がる・・・

#### パラソルカフェ@軽トラマルシェ

- ・毎月第4土曜日夕方。
- ・金剛銀座商店街で開催している軽トラマルシェ会場にてカフェスペースを設ける。
- ・飲み物1杯100円。

#### そば打ち体験会

- ・毎月第3月曜日午前。
- ・まちづくり会議参加者のお宅で開催。(UR賃貸住宅(高辺台))
- ・参加費:100円

#### もちより晩御飯会の開催

- ・毎月第4土曜日夕方(軽トラマルシェ終了後)。
- ・家庭的保育所として今年4月に設置されたKotona(\*)で開催。(金剛連絡所横)
- ・1人1品持ち寄り晩御飯を食べながら、気軽に話をする場。

#### Café&Lunch 口ペ

- ・オーナーが地域の方に貸しスペースとして空き店舗を開放。  
→元々地域の方の居場所となっていたカフェが空き店舗になっていた。
- ・まちづくり会議の場で出会った方々が中心となり、当該スペースを活用してカフェを開催する。
- ・スペースのレンタルは1時間500円。  
→居場所づくりやコミュニティビジネスの拠点に。
- ・地域の方が毎月11日にカフェを定期開催。(カフェ300円、ランチ600円。)

#### 高辺プラザにてカフェ

- ・毎月第2月曜日午後。
- ・高辺プラザで開催。
- ・参加費:100円
- ・毎月行われているDVD鑑賞会に合わせて開催。

\* Kotona  
指針の中で掲げる「地域の子育施策の充実」に関連し、本年度から家庭的保育所として開設。

### イベント企画部会

#### マルシェの定期開催

野菜の販売だけでなく情報交換や集いの場となるような色々な試みを行うマルシェを「富田林市の農業を創造する会」等と協力し開催。

#### 【開催日】

毎月第4土曜日午後。

#### 【内容】

- ・野菜の販売だけでなく、雑貨や食べ物の販売も同時に行う。
- ・集いの場としてのカフェスペースの設置。
- ・7月、8月は、子ども向けの縁日スペース(ヨーヨー釣りや人形釣り)。

#### 【今後について】

8月30日に、下半期に向けての会議を開催。

→下半期も月一回の開催が決定。(毎月第4土曜日午後)

→今後、金剛銀座商店街以外の場所での開催も検討。

- 当初考えていた「金剛銀座商店街に賑わいを取り戻す」という目的だけでなく、買い物支援の側面も。

#### 金剛バルへの協力

- ①金剛銀座商店街に飾るペットボトルツリーの作成協力。
- ②金剛バルでまちづくり会議として飲食販売ブースの出店。
- ③金剛バル運営の手伝い。

7

### 公園活用部会

#### 寺池公園フィールドワーク

昨年度のフィールドワークでの意見を踏まえて市で実施された寺池公園内の樹木剪定の状況を検証するとともに、今後の公園の利活用等について意見交換するため、4/8に改めてフィールドワークを開催。

(参加者からの意見)

- ・季節を楽しめて、高齢者から子どもまで安心、安全に利用できる明るい公園にすべき。
- ・公園づくりに近くの住民をまき込んではどうか。
- ・公園の存在をPRすることで関心を高めていくことが必要。
- ・トイレの設置が必要では。
- ・池の見える広場部分の斜面を利用したイベント等の企画をしてはどうか。
- ・部分的に埋立てして平場をつくり、公園用地の活用を図ってはどうか。

#### 公園の利活用促進について

これまでに4回の部会を開催し、

- ・金剛地区まちづくり会議参加者以外の意見集約の必要性
- ・民間活力(公民連携)による公園整備の検討の必要性
- ・公園整備や利活用促進について、ビジョン、ポリシーを持つ必要性

について話し合いを行う。

※9/9の部会では、各地のまちづくりに関わってきたまちづくり会議メンバーによる話題提供を受けて、勉強会を開催。

8

防災活動部会

「金剛地区防災ミーティング」の開催

金剛地区内の防災に関心がある人たちがゆるやかにつながる場として、「金剛地区防災ミーティング」を開催。

- ・日時: 9月29日午後1時～3時
- ・参加費: 無料(お茶等は準備)
- ・会場: 金剛連絡所2階大ホール
- ・内容

①話題提供

(市危機管理室)

大阪北部地震の状況等を踏まえ、防災に関する情報提供。

(高辺台一丁目自主防災組織(三角氏))

地域の取り組みや自主防災の大切さについて。

②参加者の交流会(意見交換会)

- ・参加者

金剛地区まちづくり会議メンバー。金剛地区内自主防災組織関係者。

小中学校関係者。自治会町会関係者。その他、防災に関心がある人。など。

情報発信(1)

facebook(SNS)ページの運用

- ・まちづくり会議や部会の開催状況、地区内の様々な話題を情報発信。
- ・イベント開催の際には、FBを通じて告知等を行っている。

現在の運用体制: 事務局以外にまちづくり会議メンバーも徐々に発信者に。



金剛地区まちづくり会議FBページ

<https://www.facebook.com/kongo.machidukuri/>

←こちらからFBページに「いいね！」してください！

■ニュースレターの発行

- ・第3号を10月末に発行予定。
- ・指針推進の取り組みの進捗情報等について、地区の皆さんに周知。
- ・原稿作成に関しては、まちづくり会議メンバーと事務局が担う。
- ・事務局で、構成を担当。

9/13に編集会議を開催し、第3号について話し合いを行う。



金剛地区まちづくり会議ニュースレター 第3号

金剛地区まちづくりサポーター育成講座

■金剛地区まちづくりサポーター育成講座の開催

本講座をきっかけに、まちづくりを担う人材の掘り起こしや育成をする。  
 →金剛地区をフィールドにまちづくりを実践できる人を対象として募集。  
 (従来の自治会や町会からという形ではなく、まちづくりに興味がある個人の参加。)

**連続4回講座**  
**まちづくりサポーター育成講座**  
 ～ひとをつくり まちをつくる～

本講座は、まちづくりに関する各分野の専門家による講義・実習(全4回)により、これから必要となる住民主体のまちづくりやその手法等について学びます。

若者を地域活動に巻き込むためには  
 自然遊びを通して  
 まちの広場マン養成講座

【対象者】まちづくりに興味がある、市内在住・在勤・在学中で高校以上の人  
 ※金剛地区(高辺台、久野庭台、寺台台)を主なフィールドとしてまちづくり運動を実施していただける人を募集します。  
 ※各回全ての講座の受講を原則としますが、個別の受講も可。  
 【定員】各回20名程度  
 【場所】市役所金剛連絡所2階大ホール(寺台台一丁目9番15号)、寺台公園(寺台台四丁目)。  
 ※場所は都合により変更する場合があります。  
 【主催】富田林市まちづくり政策部まちづくり推進課  
 詳細、お申し込みに関しては裏面に記載

**講座詳細**

- 平成30年9月8日(土) 午前10時～12時  
 講師: 藤崎 幹子氏(河本市地域おこし協力隊)  
 テーマ: 若者を地域活動に巻き込むためには  
 ※開校の週末地域おこし協力隊による地域活動の紹介、および金剛地区での地域活動に若者を巻き込むにはどうすればいいのかを一緒に考えます。
- 平成30年10月28日(日) 午後1時～3時  
 講師: 前本 和紀子氏(市民クリエイティブマネージャー)  
 テーマ: 自然遊びの森い金剛地区を主題として、～広めるための地域のつながり～  
 ※森の自然遊びが目的に込められる、地域のつながりや自然の恵みを感じ取ることができ、これらから生まれる交流活動の紹介、活動の運営などのポイント、コミュニケーションを考えます。
- 平成30年12月8日(土) 午後1時～4時  
 講師: 寺川 裕子氏(特定非営利活動法人 登山倶楽部 理事/事務局)  
 テーマ: 自然遊びを通して寺台公園の活用方法を考えよう  
 ※寺台公園での自然観察や観察、簡単な整備、クラブ活動などを通じて、公園の活用方法を考えます。お楽しみ会も予定。
- 平成31年1月26日(土) 午前10時～12時  
 講師: 藤田 幸子氏(株式会社へつこみ代表取締役)  
 テーマ: まちづくりの推進方法  
 ※まちづくりの推進方法の重要性を話し、自然の恵みを感じ取ることができ、これらから生まれる交流活動の紹介、活動の運営などのポイント、コミュニケーションを考えます。  
 ※第1・2・4回が市役所金剛連絡所2階大ホール(寺台台一丁目9番15号)、第3回は寺台公園(寺台台四丁目)で開催。当日の場所・内容は、都合により変更する場合があります。

【申込】各回、氏名、年齢、性別、連絡先(携帯電話)、受講にかかる費用等を、富田林市まちづくり推進課(〒584-8511 東陽町1番1号、TEL: 0721-25-1000/内線452) FAX: 0721-24-0269、Eメール: machizukuri@city.tondabayashi.jp)まで。  
 ※申込・受付期間は、都合により変更する場合があります。

【参加費】各回、受講料1,000円 ※参加できない回がある場合は、こちらにご記入ください。

## 金剛地区まちづくり会議の現状と課題について

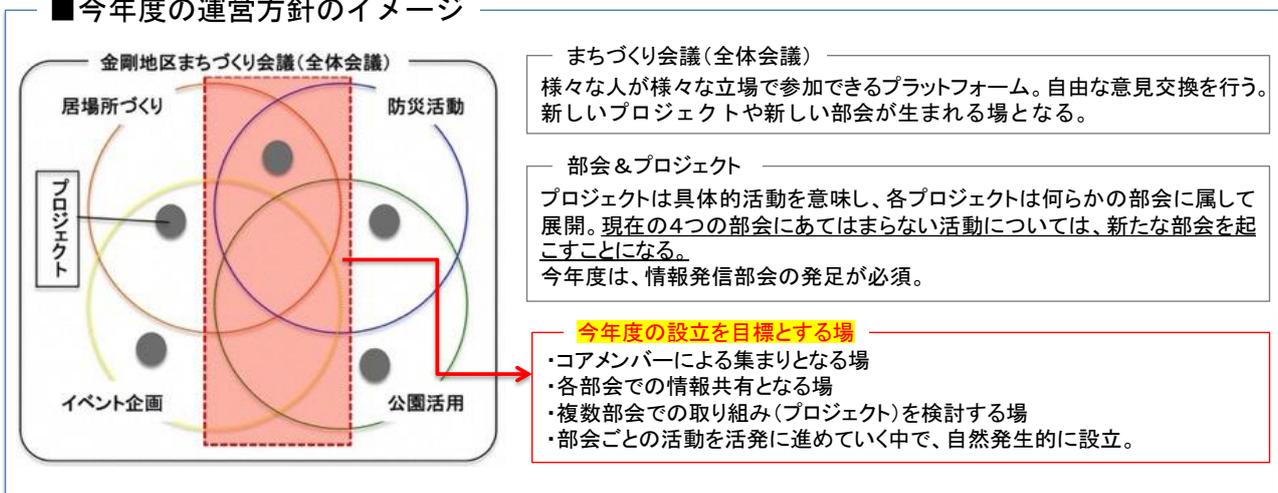
### まちづくり会議の現状と課題について

#### ■代表者・世話人等の選出・育成(1)

本会を住民主体の組織に移行するためのリーダーとなる人材が必要と考えてきた。  
 ⇒現在は、まちづくり会議・部会において、代表者等を選出できていない。  
 ⇒活動当初より、具体的な活動を進める中で選出できたらという意見もある。

(第1回全体会で今年度の運営方針が決定)

#### ■今年度の運営方針のイメージ



■代表者・世話人等の選出・育成(2)

現状

- ・プロジェクトごとにコアメンバーが、徐々に出てきている。
  - イベントに頻繁に参加しているメンバー。
  - LINEグループで連絡を取り合う。
- ・組織体系としても、ネットワーク型になってきている。

<事務局の役割は・・・>

全体会は、様々な人が出会い、つながる場であり、プロジェクトの輪を広げる場。



全体会として、そのような場を作り、加えて、個別のプロジェクトを調整するのが事務局としての役割に？



- ・全体でなにかをする、ということにとられるべきではないのか？
- ・本会全体のリーダーは必要か？

■新たなメンバーについて

現状

- ①新たなメンバーは、随時募集中。
  - FBやニュースレターなどでもメンバー募集のPRを行う。
- ②3/4に金剛公民館で開催した「金剛地区まちづくりシンポジウム」をきっかけとした新たなメンバーの参加。
- ③金剛地区まちづくりサポーター育成講座を開催し、当該講座参加者を金剛地区まちづくり会議へマッチングする予定。



一度会議に参加して以降、来なくなる人も多い。



新たな参加者が金剛地区まちづくり会議メンバーとして定着するには？

■情報発信について

現状

情報発信については事務局が中心となって行ってきた。

(市HP、FBページ、ニュースレター等)

→少しずつ、まちづくり会議メンバーによる発信が増えてきている。

→メンバーからも情報発信が重要であるという意見が出ている。



- ・それでもなお、事務局が中心となって発信を行っている。
- ・プロジェクトごとに温度差がある。
- ・役割分担をきちんと行えていない。
- ・町会自治会への取り次ぎ(回覧、配布依頼)は、市が行っている。



- ・まちづくり会議において、情報発信部会立ち上げの機運をつくるには？
- ・効果的に情報発信を行うためには、どのように取り組むべきか？

■活動継続のための予算確保について

各部会の活動を今後も継続していくためには、予算の確保が必要。

→自分たちで自分たちの活動費用を捻出する必要がある。

現状

実際に

- ・まちづくりサポーター養成講座の開催費用
  - ・軽トラマルシェのチラシ印刷費用や出店に関する費用
  - ・会議の会場費
  - ・ニュースレター印刷費
  - ・その他イベントに際して必要となる費用
- 等が、かかっている。



- ・助成金などの申請？  
→団体として、申請ができる体制づくりができていない
- ・軽トラマルシェでの出店料を収入に？  
→出店料を請求するほどの集客ができていない。



活動予算の確保をどのように進めていくべきか？